



ジャノヒゲ（蛇の髭） <キジカクシ科(旧ユリ科)・ジャノヒゲ属>

別名リュウヒゲ。北海道～九州の山野の林内に自生する常緑の多年草。葉は細く、長さ10～30センチ、幅は2～3ミリで、匍匐枝を出し群生する。夏、淡紫色又は白色の小花を下向きに咲かせ、冬に実を結ぶ。実は果皮が薄いために成長途中で剥がれ落ち、種子が露出したまま成熟する。約7ミリの美しい瑠璃色の実は種子そのもの。根がしっかりと張り日陰でもよく育ち、強健で育てやすいので小道の境界やグランドカバーに利用される。また、根の紡錘形にふくらんだ部分を「菱門冬」と呼び、漢方薬に用いる。和名は細長い葉の姿に由来。…▼春一番のマンサクが咲き、梅がほころび、フキトウも我先にと顔を出す。樹々の下には青々と繁るジャノヒゲが。▼季節を告げる自然界。日ごとに延びる陽の光に、陽の明るさに、花や草、木の芽吹きに春を見る。▼未曾有の大災害となった東日本大震災から10年。生き残ったウメの木が花を付け、多くの人の励みになった事が脳裏をよぎる。どうか、希望の春となりますように。

～佐伯区湯来町 2021・2月～